

「小学校プログラム」のかたちを求めて

— 『チーム学校』を手がかりに—

甲南大学教職教育センター 教職指導員 田村 泰宏

1 『チーム学校』と教員養成

『チーム学校』という言葉を目にするようになった。今さらの感があるものの、学校が置かれている現状からすれば、そこを強調すべき時期がどうとう来たかという印象をもつ。

学校は組織体である。教員やサポートスタッフ、地域人材や保護者また関係諸機関といったさまざまな人の力を時に応じてコーディネートしながら、総合的に教育目標の具現化に向けて邁進し続けるのが使命である。

ならば、『チーム学校』が、これからも学校という組織体を成立させる大切なコンセプトであることを前提とした教員養成をもっと意識するべきであろう。学校運営のためにコーディネートされるにふさわしい力をもつ人材を養成する、また、コーディネートする度量をもった人材を育てることが要点となる。

2 「小学校プログラム」の活動目的と内容

本学では神戸親和女子大学と協定を結び、中学校教諭免許取得課程履修生の内、希望があればとくに小学校教諭1種免許が取得できるプログラムを置いている。道のりは非常に厳しい。それゆえ、小学校プログラムで地道に活動を続ける学生たちには、可能な限り、この『チーム学校』の中で十全に力を発揮することができる人材として本学を巣立つように、合理的に支援しておきたい。

まずは、『チーム学校』の中でコーディネートされるにふさわしい力を備えること。すなわち、各自が教員をめざして専門性を磨き上げることである。「理科の植物の授業なら私にまかせてください。」と言わないまでも思えるかどうか。各学部での研究や模擬授業で力に磨きをかけてほしい。合わせ

て『チーム学校』の中で人的資源をコーディネートしつつ教育活動を企画立案し、学級・学年・学校づくりを進めていく心構えも持たせたい。

「小学校プログラム」に参加する学生を集めて、月1回土曜日に、「小学校プログラム全体会」を実施している。目的は、「授業力を高める」こと、及び「小学校教育の今日の動向を知る」ことの二点である。以下を活動内容とし、ひいては『チーム学校』に資する力を、それぞれの個性に合わせつつ伸ばしていきたいと考えている。

(1) 授業力を身に付ける

一面では『チーム学校』は教員の多忙さを是正し、授業に専念できるようにするサポートシステムでもある。授業に専念することに焦点を当てれば、必然的に教員の立場は、授業の担い手としての専門性を強く期待されるものになる。「教師は授業で勝負する。」とは言い古された言葉ではあるが、今後ますます内実を洗練していくべきであろう。新任教諭といえども新たな授業像を探る姿勢や研究への高い意欲をもって教壇に立つことが求められるようになる。

「小学校プログラム全体会」では、各回必ず模擬授業を実施している。今年度は以下の教材をとりあげ、本格的な学習指導案を準備して、それぞれ45分の授業を実践した。

月	単 元 ・ 題 材
4	算数2年「長さをはかるう」
5	道徳4年「目ざまし時計」
6	算数2年「長方形と正方形」
7	算数4年「分数のたし算とひき算」
9	社会6年「民主主義による国をめざして」
10	国語4年「ありの行列」
11	算数6年「分数÷分数の計算」

3年生が中心に、授業者になったり事後の討議

会の司会をしたりしながら進行している。12月以降も継続し、1月からは2年生も授業者になる。

テーマのある授業を組み立てるように事前の準備を進めるものの、なかなかしぼりこめないところを、事後の討議会で4年生が的確かつ厳しい意見を述べ、各人の課題を洗い出す。教材研究、発問・助言、話し合いの進行、ワークシートや資料のあり方、また評価など、活発な授業展開をめざして磨き合う。授業とは、「？」で始まり「！」で終わるものである。「？」と「！」との間を、いかに子どもたちが能動的に取り組むように組み立てるのか、腕の見せ所である。学習指導要領改訂に向けて、アクティブラーニングという角度付けがなされている。これまでに無いような創意工夫が教員には求められる。少なくとも、それぞれの授業に対する注文に、自分の殻に閉じこもることなく正対していこうとする姿勢を、模擬授業にチャレンジしながら育てることをめざしている。

(2) 小学校教育の今日的動向を知る

「小学校プログラム全体会」では、小学校教育の今日的動向を知るために、情報交流も行っている。これまで次の話題を取り上げている。

月	話 題
4	子どもの心に培う国語科教育
5	道徳のこれまでとこれから
6	示範授業「のはらうたを楽しもう」
7	表現活動を柱にした学校づくり
9	話し合いこそ授業の神髄

現行学習指導要領、あるいはその改訂を見据え、歴史的な経緯もおさえつつキーワードとなる事柄を話題にとりあげながら、いかに授業に具現化していくことができるのかを話し合うようにしている。また、実際に小学校で熱心に研究活動が進められている様子についても紹介している。

5月には卒業後小学校教諭として活躍している先輩の示範授業を見る取り組みも行った。本物を見るにしかず。詩を鑑賞する授業は、さすがに学習者への細やかな配慮にあふれ、圧巻であった。

一方、神戸親和女子大学の通信教育による学びは、この小学校教育の今日的動向をつかむことそ

のものである。レポートを主に、スクーリングやテストを受けて単位をそろえていくことには、各学生とも苦勞しているが、文章にまとめることで、小学校の教職教養や教科教育法の特徴を良く理解し自分のものになっていることが分かる。レポートは、今なお手書きである。まさに文章修業。夏に面接演習を行った際に、その意味を幾重にも感じることができた。4年生には、この行き足そのままに、教壇に立つ日を迎えてほしいと願っている。

(3) 参観体験実習で『チーム学校』を感じる

2年生に参観体験実習の場を設け、『チーム学校』を肌で感じることができるようにも計画している。今年度から神戸市立本山第二小学校に協力を依頼し二日間の実習を行う。

目 的	児童の「学校生活の一日」を体験的に参観し、教職員の児童への指導に学ぶことで今後の各自の資質向上に活かすようする。
実施日	・ 平成28年2月1日～2日
実習校	・ 神戸市立本山第二小学校
内 容	○ 本山第二小学校の教育活動の組織的な取り組みを学ぶ。 ○ 授業の実際を参観する。 ○ 給食・清掃・休憩時やクラブ活動で児童とのふれあいを体験する。

本山第二小学校は大規模校である。教職員の協力し合う姿の意味を感じ取ってもらいたい。

3 『チーム学校』を豊かにイメージする

どちらかといえば、コーディネートされる力を養成する方が容易で、コーディネートする度量を教員養成課程内で育てることは難しい。

実際に即して育てていくものではあるが、学校が組織体であってはじめて日々の授業が成立することや、その授業でさえ今後さまざまな人材をコーディネートしていきながら実践するものになるということは伝えられる。

本学の教職課程を履修しながら、『チーム学校』の姿を感じることも必ずあるだろう。「小学校プログラム」参加学生を支援するさまざまな方の存在も合わせて教えていきながら、自らが活躍する舞台である将来の学校のイメージを、豊かに思い描かせたいものである。